

SDGs = Sustainable Development Goals

「持続可能な開発目標」

(1) 年間 (540) 万人の子どもたちが 5 歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。約 (6) 秒に 1 人、世界のどこかで幼い命が失われているのです。

(2) (6,300) 万人の小学校就学年齢の子どもたちが、学校に通えずにいます。「(女の子)だから」「(貧しい)から」「(障がい)があるから」、理由は様々です。

(3) 極度の貧困状態*の下で暮らしている人は 7 億 6,700 万人、そのうち約半数が (子ども) で 3 億 8,500 万人にのぼります。多くは南アジアとサハラ以南のアフリカに集中しています。

(4) 日本のように安全な水を必要な時に家で利用できない人が (22 億) 人。このうち 1 億 4,400 万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っています。

(5) 排泄物を衛生的に処理できるトイレが家がない人は (42) 億人。このうち 6 億 7,300 万人以上が、草むらなど (屋外) で用を足しています。

(6) 世界の赤ちゃんとお母さんを守る日本発祥の「(母子健康手帳)」

日本は、乳児死亡率が世界で一番低い国の一つです。一役買っているのが「(母子健康手帳)」。妊娠・出産から赤ちゃんが 6 歳になるまで、母子が継続してケアを受けるための健康記録です。予防接種や健診、成長のようすが一目でわかり、問題があったときにも早く発見し、対処することができます。日本は政府開発援助 (ODA) を活用して 20 年ほど前から、アジア・アフリカ諸国で (母子健康手帳) を広める国際協力を進めています。お母さんや家族の保健の知識を向上させ、妊産婦と乳幼児の健康状態を改善していく。母子健康手帳にはそんな知恵が詰まっています。生まれる環境は誰も選ぶことができません。自分ではどうしようもないことで、将来の制約を受ける、そんな不平等を克服するための、ひとつの取り組みです。

(7) 開発途上国の多くのお母さんと赤ちゃんが直面している問題にかかわるデータ

＜産前・産後のケアの不足＞

妊娠・出産中の合併症が原因で死亡する女性は年間約(30万3,000)人(1日約(830)人)もいます。

＜栄養不良＞

世界の5歳未満児の(21.9)%(1億4,900万人)が日常的に栄養を十分に取れず、発育阻害の状態にあります。乳幼児期の栄養の不足は、身体だけでなく知能の発達も遅らせ、その影響は生涯にわたるものとなります。

(8) 性別を理由に機会の不平等が起こることがあります。例えば、教育を受けられる女子の割合が男子よりも低い国も多くあります。また、国会議員に占める女性の割合は世界的に低く(2017年12月時点で、世界

平均は23.6%(日本は(10.1)%)、男女が意思決定の過程に積極的に参画し、多様な意思が政治や政策に反映されていくようにすることはとても重要です。日本政府も「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度となるよう期待する」との目標を掲げ、取り組みを進めています。

(9) 先進国の子どもたちの状況を子どもに関連の深いSDGsの目標について比較したユニセフの調査によれば、日本は貧困の撲滅については23位(37カ国中)、格差の縮小については(32)位(41カ国中)

でした。

(10) 企業で社会の課題を解決

医療、安全な水や衛生、十分な栄養など、世界には「生きていく上で最低限必要なものを手に入れられるかどうか」にさえ不平等があります。そうした不平等を、企業が持っている技術力や専門性を生かして克服しようとする取り組みが広がっています。例えば、貧しい人でもまかなえる価格で設置できるトイレや安価な医薬品の開発と普及、マラリア予防の蚊帳の開発、貧しい地域での浄水・給水事業、乳幼児の栄養改善食の開発など、日本企業も様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

(携帯電話)や(ドローン)、衛星技術など、企業が開発する新しい技術も、こうした課題解決にますます貢献すると期待されています。

(11) 今日の授業の感想を書きましょう。